

場に運ぶ車を取材して、会場でその映像を流せば良いと思って取材を始めたんです。

O.B. 映像を拝見しましたが、捨てに来る人々の声は何よりショックでした。

藤村 命を救うために日々、病院で働いた経験があるので、健康で何の問題もない犬が、明日には殺されるというのに、次々と捨てられる様子には心が痛みました。半日の同行取材で行列が出来ていたり、捨てに来るのは2度目というような人もいたんです。私は定時定点回収自体が悪いとは思わないんです。問題なのは、そこに簡単に捨てに来てしまう飼い主だなど・・・。回収している人に話を聞くと、自分たちが回収しないと山や川に捨てられてしまうと言うんです。

O.B. そもそも、どうして飼っている犬を捨てられるのでしょうか？

藤村 捨てる人は命に対しての想像力がないんだと思いました。その犬が捨てられた後に、どれほどの苦しみを経験して、どうやって死んでいくのか。また捨てられた瞬間に犬がどう思うのかなんて考えないんでしょうね。そこで法律で何とかならないものかと調べると、5年に1度、動物愛護管理法が見直しされることが分かったので、今すぐ何か始めないといけないと大変だと思い、「動物愛護管理法を見直す会」を立ち上げました。殺されていく犬を見て、可哀想と思っているだけじゃ何も変わらないと思ったんです。国を変えたり、他人を変えたりするのは大変だけれど、まずは自分を変えてみようということで、スタートさせました。

O.B. 現在の動物愛護管理法の問題点はどこにあるのでしょうか？



藤村 それぞれの成り立ちが、犬を管理するための法律なんです、愛護という名前は付いていますが、ですから動物の命を守るために虐待の定義をきちんと定め、8週齢以下は母犬から離さないというような動物のための法律に今回の改正で変えていただきたいと思っています。また、多くの殺処分場では二酸化炭素を用いて、恐怖や苦しみを長時間に渡り味あわせ殺しているという現実があることです。2000年のアメリカ

獣医師会で麻酔の作用があるというような結果が出たといいますが、私は疑問を持っています。安楽死とはあくまでも、眠るように安らかな死を遂げることであって、呼吸が苦しくなり、息が出来ない状態で失神するように死ぬことではないと考えていますので。ただ、ペット市場は1兆3千億円と言われるほど産業として大きく膨れ上がっていて、国に入る税収もそれに伴って多くなっているんです。そうすると、世の常として、どんどん生産性を高める方向に進んで、規制やモラル意識は鈍化するものですから。であれば、産業を保護するための法律は別に考えてもらって、動物愛護法は、動物の命を守るための仕組みにしなければなりません。それが本来の意図として機能しないのでは、名ばかりで全く意味がないです。

O.B. 本格的に取り組みされて1年で、多くの方を巻き込んで署名活動が広まっているのはすごいですね。

藤村 私1人では何も出来なかったと思っています。滝川クリステルさんや、浅田美代子さんが参加して下さったり、当時国会議員だった藤野真紀子さんがお役所の方や国会議員の方に声を掛けて下さったり、めぐろのいぬやしきの松本卓子さんにも協力もいただき、本当に感謝しています。会に寄せられた署名は1万件に届くほど集まってい

- VOL.61 ヒロコ・グレースさん
- VOL.60 辺見えみりさん
- VOL.59 松澤知加子さん
- VOL.58 吉川愛歩さん
- VOL.57 井上貴子さん
- VOL.56 小松聖さん
- VOL.55 武藤静香さん
- VOL.54 高垣麗子さん
- VOL.53 増田宏司さん
- VOL.52 ほしのあきさん
- VOL.51 藤村晃子さん
- VOL.50 浅田美代子さん
- VOL.49 藤野真紀子さん
- VOL.48 神田うのさん
- VOL.47 マルコ・ブルーノさん
- VOL.46 ヨツヤタカヒロ.さん
- VOL.45 吉野紗香さん
- VOL.44 スザンヌさん
- VOL.43 藤田朋子さん
- VOL.42 田辺アンニイさん
- VOL.41 井出有治さん
- VOL.40 飯田基晴さん
- VOL.39 井口達也さん
- VOL.38 神取忍さん
- VOL.37 谷原秀人さん
- VOL.36 高倉はるかさん
- VOL.35 佐瀬栄子さん
- VOL.34 竹下玲奈さん
- VOL.33 大沼則子さん
- VOL.32 柴田理恵さん
- VOL.31 山田りこさん
- VOL.30 ヨーコ ゼッターランドさん
- VOL.29 松江香史子さん
- VOL.28 金子貴俊さん
- VOL.27 石野孝さん
- VOL.26 西川豊教さん